（様式第１号）

■　会議録　　☐　会議要旨

会議の名称	令和４年度　第１回芦屋市市民参画協働推進会議
日　　　時	令和５年３月１３日（月）午後４時３０分～午後６時
場　　　所	芦屋市役所東館３階中会議室（オンライン会議）
出　席　者	会　長　　渡辺　直子 副会長　　平野　隆之 委　員　　出口　睦子　　宮平　太　　廣瀬　雅宣　　松井　順子
欠　　　席	委　員　　鎌田　誠史
事　務　局	市民参画・協働推進室　室長　川口　弥良、係長　御宿　弘士、井上　真希
会議の公開	■　公開 －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ ☐　非公開　　　　☐　一部公開 〔芦屋市情報公開条例第19条の規定により非公開・一部公開は出席者の３分の２以上の賛成が必要〕 ＜非公開・一部公開とした場合の理由＞
傍 聴 者 数	０人

１．会議次第

（１）開会及び委嘱

（２）議題

【議題１】令和３年度第３次芦屋市市民参画協働推進計画の事業実施結果について

【議題２】今後の市民活動に関する意見交換

（３）その他

（４）閉会

２．提出資料

（１）　次第

（２）　委員名簿

（３）　〔調査票 1〕第３次芦屋市市民参画協働推進計画取組

（４）　〔調査票 2〕公共施設等の提供について

３．審議内容

（２）議題

【議題１】令和３年度第３次芦屋市市民参画協働推進計画の事業実施結果ついて

（渡 辺 会 長）　令和３年度の市民参画・協働に関する各取組の状況は、やはりコロナがかなり邪魔をしているところがあるのが一つ、それと、事業実施結果は、どこかのタイミングで集約しているので、各課への照会の際に把握できておらず、もっと臨機

応変に状況に合わせた活動があるのではないかと思います。例えば松井委員と時々やりとりしている中では、学生さんも活用しながら社会福祉協議会と一緒に活動しておられますし、私は、今年、社会福祉協議会の宮平委員と一緒になって岩園町自治会と秋にイベントをしました。世代交流とか防災とかにつながるように持っていこうと自治会で考えながら、社会福祉協議会にもご協力をいただき、市民提案型事業補助金を活用しました。今年で３年目になりますが、今年は参加者が３００人を突破しまして、一日だけでしたけど、地域が賑わい、みんなの印象に残ったいい活動だったと思います。このように、各委員の方々が今年度振り返って自分たちの活動でも結構ですし、それ以外のことでも結構ですので、市からの報告に対する感想・ご意見も含めて発言をお願いします。

（平野副会長）　私は芦屋市に在住していませんので、具体的な活動ということでのコメントは難しいのですが、先ほどの岩園町の活動は、お芋さんを焼く取組でしたね。地域福祉でもそれがとっても大きな話題になっていましたし、私もうまくいってほしいという思いで聞いていました。少し別の視点からになりますが、Ａ３の用紙で活動が整理されていることについて、例えば代表例として地域福祉課のように、市民協働との接点がある分野の取組と、少し性格の異なる分野の取組を所管されている関係課の、しかも事業ごとに整理されています。これでは全体を捉えにくい。

作業上、資料の準備をすること自体は必要かと思いますが、一年の終わりにおいて計画の進捗の成果として、個々の事業ではなく、まとめる方法はないかというのが大きな課題だと思います。特に、当該の市民参画・協働推進室そのものは、別に掲載すべきですね。資料は、おそらく行政上の所管課順に従って事業を並べていると思いますが、それは内容を説明する時に有効とは思えない。

例えば人権・男女共生課など、ある特徴的にターゲットを決めている分野と、そうではなくて一般的に幅広い市民層を相手にしている分野や、あるいは国際交流とかの事業が、所管課順に並んでも、掴みどころがない。しかも、所管課に照会して、回答が返ってくるという形式で資料を作成するため、所管課は市民参画・協働の深い意図を込めた文章として書いてるかどうかという疑問点も当然あります。少し詳細の事業に落とし込みすぎている感じがします。市民参画協働推進計画に沿ってというのはよくわかりますが、市民参画・協働推進室は何をしているのかというのが余計に見えない。例えば他課と一体的にやっている事業でなければ、別の整理にすればいい。推進計画をチェックするけれども、市民参画・協働推進室の仕事を同時にチェックする議論ができる関係がないと、議論しようがないんじゃないでしょうか。事業の所管課は今日の市民参画協働推進会議の話を聞くわけでもないですし、かといって今日出た議論を所管課にフィードバックする訳でもないと思います。この場で議論しなければならないことは一体何になるのかが、この表だと分からないということになるんですね。今の状況は、市民参画協働推進計画の個々の項目を検討する事にシフトし過ぎです。これは今までの行政評価の在り方が計画項目に沿って評価をするということを踏襲してきた、ある意味で大きな弊害だと思います。個々の事業を評価対象とするため全体が捉え

きれない。市民参画協働推進計画の進行管理上どういうふうに考えていくべきなのかということは、市民参画協働推進の計画を推進する上で重要な論点みたいなものを予め担当課が整理して出すべきだと思います。羅列された事業実施結果をもとに、委員に議論してくださいということ自体が無理というか、それは根本的に体質を変えないと、何回こういう話し合いをしたって意味がないということだと思います。まず当該課が何をしているかを見える形にして評価すること。それが、当該課の持っている事業の評価になる訳です。勿論、個々の成果はそれぞれ確認していただいたらいいと思いますが、私の立場からすると、計画の進行管理の方法が簡単に言うと間違っているという感じです。厳しく批判している訳ではなく、どこの行政もそうだし、どこの課においても同じような作業になっています。だけど市民協働の場合には主体が住民に置かれているので、論点が整理されたうえで、そこから市民の方と協働していくということだと思うので、計画の進捗管理について検討の余地があるのではないかと思います。

（渡 辺 会 長）　そうですね、実は私もこれを読んだときに、同じようなことを感じていた面もあって、この会議のメンバーは、市民参画協働がどこに向かいたいのかということについて議論した方がいいと思いますが、その議論のきっかけになるような投げかけをしてもらうと、もう少し議論が活性化するのではないでしょうか。今の資料では、これを見て感想みたいなものを言うしかないので、それはもったいないし、感想と言われても頑張っているといえば頑張っていますねという感じにしかなりません。芦屋市全体の市民活動として何かとても胸を張って言えるような成果が出ているかというと、あまりそういう感じはしないので、ばら撒かれたエレメンツを、どう集約していって、芦屋市の市民活動の自慢の「顔」を作っていくかという議論を、本来は市民参画協働推進会議でしたいと思います。

（廣 瀬 委 員）　確かに市役所だから、このような資料になってしまうのではないかなと思います。もう少し市民の目線でわかりやすい、一つのことに対して市民参画・協働推進室としてこういうことをしたということと、それで市民がどうなったかをまとめた方が分かりやすいのではないか。

（宮 平 委 員）　私からは、先ほど渡辺会長からありました焼き芋の話を例に、協働について話します。資料の中では６ページの 63 番に地域福祉アクションプログラム推進協議会という事業名が出ており、この中に、落ち葉で焼き芋と記載されています。この事業は地域福祉課より社会福祉協議会が委託を受けて実施しており、渡辺会長とも協働できました。令和３年度に、落ち葉問題を考えるときに学生も交えた話し合いををし、学生から「焼き芋やったら面白いから学生来るかも」という話を受け、落ち葉で焼き芋やってみようとなりました。そこで、岩園町の自治会さんに声をかけさせてもらったら、面白い、やってみようか、というお声をいただき実施したところです。令和３年度は、岩ケ平公園の掃除と焼き芋をセットにする取組でしたが、去年の反省点は、社会福祉協議会が準備をかなりやったところがあり、自治会の方にもっとやってもらったらよかったなというところがあります。こういうイベントは、大体二回目も同じようにやることが多いのですが、今年は、ほとんど岩園町自治会の方が主で開催しまして、去年は芋を買ってきまし

たが、今年は、岩園町自治会の方が芋を育てるとこからはじめました。そして育った芋を収穫して焼き芋にしました。また、協力先として、自主防災会、警察学校など、協働先を広げていったのも自治会が全部、自分たちで声かけをされました。本当に協働が進んだ事例だと思います。それと、去年このイベントをするきっかけになった落ち葉・焼き芋やったら集まるかもと発言した学生が、今年も手伝いに来てくれました。それで、今年のイベント終了後のミーティングの時に、自治会長さんがこれだけ大きなイベントになったけれども、このイベントのきっかけを作ってくれたのは彼です、とその若者を紹介してくれたんです。それがすごくいいなと思いました。一つ一つの声掛けというか、気遣いや気持ちを伝えることが、協働する上ではとても大事だなと感じたエピソードとして紹介させていただきました。

（渡 辺 会 長）　岩園町は自治会が積極的で、出たアイデアを自治会でどうやってこなそうかということを、何回も会議を開いて考えていました。また、こなすだけでなく、もっと面白くできないかなという気概もあり、会議自体も楽しんでいるし、宮平委員が発言されたように、今年はお芋を植えるところから、自治会に参加する人の枠も広げ、そこに子どもも巻き込んで、準備段階からどんどん市民参画のハードルを下げて、皆を巻き込んでいく工夫により広がっているのが現状です。

一度良い形で転がりはじめると、いろいろなことが雪だるま式に広がり、どんどん転がっていって、「楽しい」というキーワードで市民参画がどんどん広がっていくというのが、生き物のようで、それが市民活動の面白さです。このライブ感こそが市民活動の醍醐味だと思いました。一方、そこのところにすごく苦労されたのが松井委員で、松井委員はご自分がシードを持っていて、それをどこか受け皿になってくれるような自治会を一生懸命探されたんですけれども、なかなかうまくいかないという話を時々、私になさっています。

（松 井 委 員）　私の行っている活動については、健康づくりには比較的に参加者が多いので、参加してもらうためのキーワードにして、そこから関係性を構築し、その後はまちづくりに向けて、グループワークなどをして防災も考えていくという枠組みで、始めました。まずは参加者を自治会の方を対象と考え、宮平委員に比較的熱心な自治会をいくつかご紹介いただき、自治会の扉を叩きました。しかしながら、自治会の取組メニューが一杯で話を聞く時間がない、と言われたり、ビラを印刷をしてお届けした自治会の会合では、自治会の掲示板の余白は空いていても自治会の会員ではないのでビラを貼る訳にはいかないと言われるなどの、状態が続きました。結局は活動メンバーの中で、親しい自治会長さんとかにお声をかけていただいたり、渡辺会長よりご紹介いただいたソーシャルワーカーの方がいろんな方をご紹介くださって、それで参加者が増えました。周知方法で一番確実だったのはロコミでした。チラシも５００枚ほど刷り配布しましたが全然効果はなくて、チラシを見て来てくださったのは、１名です。私は人を集めることの難しさをこの一年間勉強しました。それはそれでとてもよかったと思っています。結果的に十数名の方が集まり、最後に３月５日に会を開いたのですが、４月はいつですか、とお尋ねをくださいました。４月はいつですかって言ってくださっている十数名

の人たちは、次に繋がってまた人を呼んできてくださいます。事業を継続する上で市民提案型事業補助金を活用したかったのですが、補助採択までのスケジュールを考えると事業の開始を遅らせなければならず、結局この人たちと、繋がらなくなってしまいます。事業としては、市民提案型事業補助金に頼らず独自で進めればいいことではありますが、まず一つ目の提案としては、市民提案型事業補助金を年に二回募集する場合、一回目は前年度に募集をかけていただき、４月から５月には補助対象事業が動くような仕組みを作っていただけたら、新しく参入する人たちがいろんな形の会を提案してくると思います。

それから、実際に活動してみて先ほど自治会のこと申し上げましたが、振り向いてくれる自治会もありました。とても地域の温度差が大きいです。岩園町自治会の焼き芋の取組も見学しました。若い方、子供たちが参加しています。素晴らしいなと思いました。そのような地域もあれば、そうではなく、自治会活動は熱心だけれども他のからの声掛けには振り向かない、自分たちで自己完結しているところも多いです。振り向いてくれない、あるいは全く活動がない地域はこのままでいいのかなと思いました。活動に対する温度差をいかにして下げて繋いでいくか、あるいは自治会単位で動いていることが芦屋市の特徴であったとしても、現状で留まっていると市民参画が推進できないんじゃないかと非常に感じました。

今は高齢者が主体になっていますけど、防災などは特に若い世代に入っていただきたいなと思っていますし、子育て世代の問題、渡辺会長の活動から学びたいことも非常にあります。社会福祉協議会に入っていただいて繋いでいただけたら本当にいいなと感じます。事業をもう少し前倒しで動かす仕組みと、提案時にも、こんな提案もありますよと紹介いただける機会があればよいのではないかと思いました。

参加者を集める上では、地域で動いてくださっている方たちの口コミが非常に有効でしたので、中間層にいる人たちを繋ぐような仕組みを作っていただけたら、市民参画の裾野が広がるのではないかと考えます。

（渡 辺 会 長）　今の松井委員のお話は、市民活動の経緯と課題が大変よくわかる貴重なお話だったと思います。玉砕してしまったところとうまくいったところのポイントがわかるようなお話が聞けたんではないかなと思います。

最後の発言者である出口委員は、市民活動センターリードあしやで、受付にいらして、いろいろなことを聞いたら親切に案内してくださるし、他の活動団体の方にも大変熱心に接しておられるという印象が、私にはあります。毎日、休みの日以外は市民活動しておられる方に接して、つぶさにその様子をご覧になっている方だと思うので、その辺りの視点から、昨今の芦屋市の市民活動及び市民活動団体について思われるところと、こういうものもあればもう少し活動も活性化するのではないかというようなヒントを頂戴できればと思いますので、よろしくお願いします。

（出 口 委 員）　先ほども話題に出てますコロナ禍が、活動に影響していると思います。でも市民活動団体は、何をどうすれば自分たちがやっていけるのかというふうに、でき

ることをできる人数で、できるだけの規模でやっていこうという努力をされていることを、この二年間、接する中でみてきたことです。自治会もですし、一般企業の社会貢献グループもです。集まれないからズームでやりましょう、講座もズームでやりましょう、という努力をされています。

コロナ禍の制限が緩和されてきた中で、市民活動団体の中には、コロナが怖いからということで参加人数が減っていた団体さんもいらっしゃましたが、制限が緩和されることで活動に戻ってこられる方もおられるため、リードあしやの利用者も増えてきていますし、活動も活発にはなっています。

活動が活発になっていると実感しているのは、あしやＮＰＯセンターの法人事業として運営している、「ためまっぷ芦屋」というＷＥＢサイトの中で、団体のイベントチラシを提示しているのですが、投稿が増えてきています。この「ためまっぷ芦屋」は、あしやＮＰＯセンターだけの事業ではなくて、社会福祉協議会や芦屋市、コープこうべのお手伝いをいただきながら取り組んでいるものです。今までは、あしやＮＰＯセンターでチラシを掲載しますよとご案内していたものを、活動団体がご自身でＷＥＢサイトに登録してチラシの掲載ができますので、自分たちでどんどん情報をアップしていってくださいとお願いしています。そのため、登録して自分たちのイベントをどんどん WEB サイトに掲載してくださる団体も増えていますので、その掲載数が上がることによって活動が広がっているのではないかと感じます。

ただし、もう一つ感じることは横の繋がりというのがなかなかないところです。チラシを見ていても、それぞれの団体が同じような内容で、すごく近くで実施しているのになと思うことがありますので、リードあしやを拠点として市民活動されている人たちをもう少し繋げていくことがリードあしやの今後の課題だと思っています。皆さんの活動がコロナ禍以前に戻ってきてから登録団体だけではなく、一般の団体、自治会、企業の社会貢献グループ、様々な団体がリードあしやをご利用されています。その方たちをどのように巻き込んでいくか、がポイントで、ためまっぷ芦屋の掲載情報を見ると、こんな活動もされていたんだ、とチラシを見て思うこともすごく多いです。リードあしやの職員が声掛けをしていって、コミュニケーションをとり、横の繋がりを増やしていけるような仕掛け、取組を考えていかないといけないなということを実感しています。

（廣 瀬 委 員）　芦屋川にあるテニスコートの松林を散歩したんですけどね、いつも毎週日曜日の１０時くらいから高齢者が２,３０人集まって活動されていて、それを芦屋市が推進していけば、人も集まるし、いいのではないかと思います。

（事　務　局）　ご意見ありがとうございます。コロナ禍の影響で、人の集まり方とか活動の進め方自体が変わってきていると感じています。例えば世間では、コロナ禍をきっかけにアウトドアブームあったように、皆さんの行動様式が変わった部分があると感じていますが、マスク着用が解禁され、この先、もっとコロナに対する緩和が進むと、活動が以前の状態にいくらか戻るとは思いますので、ご紹介のあったような人の集まり方についても、例えばお楽しみを中心とした集まりや、スポー

ツとかいったことをきっかけとした集まりなど、その状況を見据えながら、支援していく方法を考えていくことになろうかと思います。

（渡 辺 会 長）　今のご意見聞いてると、地域の公園は一つすごく大きなキーになるかなと思っています。もう一つは、市民活動センターですね、チラシを作るとか、SNS で発信する時に方法がわからないから教えてほしいとか、具体的な活動のノウハウについて、お手伝いをしてくださいます。でもそういう支援があることを意外と皆知らなくて、先日、センターで働く知り合いに相談したら、無料相談がありますよと教えてもらいました。その周知ももっとできればいいし、それも含めて、あまり大上段に構えずに、あるものを上手に活かしたり、上手に繋げたりすることでやっていくのが市民活動の面白さと良さなんじゃないかなと思います。委員の皆さんの意見もそういう観点でお話されていましたので一度、市でも見ていただいたらと思います。

（事　務　局）　今回、皆さんにお渡しした資料のまとめ方が、行政評価の観点で、それぞれの施策に紐づく取組を網羅的に掲載してしまったところですが、そうではなく、いま市民活動が何に重きを置いているのか、あるいはどんなふうにやっていくべきなのかということを、皆さんと議論していくための投げかけ方を考えていく必要があることに気づかせていただきました。その中で、今回渡辺会長にご指摘いただいたように、今ある資源を有効活用してどう展開していくかが市民活動の醍醐味じゃないかという点については、まさにその通りだと思います。また、出口委員に仰っていただいた横の繋がりが重要という点では、自治会にしても市民活動団体にしても、傾向として少しあるのが、最初に活動を組立てていく段階ではいろいろな方との連携があるのだと思いますが、活動が安定的に進んでいくと、決まったルーティーンになり、新しい人が入りにくくなったりとか、自分たちの中だけで回してしまうみたいなところがあると感じています。

多くの自治会も同様の傾向があるのではないかと感じていますが、携わっておられる方がすごく柔軟で、いろんな活動を取り入れていこうという姿勢であれば、地域で活動されている方々のアイデアを取り入れる自治会には、活動者を繋いでいくことによって、今やってることだけではなく、新たな活動の中で関わる人材の輪が広がる可能性があると思っています。松井委員がやっておられる活動も、地域は、結構　警戒心が強いところがあるのではないかと感じています。特に、自分たちの地域外の活動については、同じ芦屋市民ですけど、町がまたがってしまったりすると、部外者のように感じられる傾向があると見ています。いろいろ話をしてみれば、警戒心も解きほぐされていくだろうとは思いますが、新しいこととか、新しい人が入ってくることに対して警戒感があるのではないかと、窓口で対応している中でも感じます。できるだけ市が間に入ったりとか、社会福祉協議会や、リードあしやの職員の皆さんとかが間に入ることによって、垣根を取り払っていけば地域の活動の中でも新しいものが出てくる可能性があると思っているところです。

（渡 辺 会 長）　皆さん同じことを感じていらっしゃると思いますけれども、芦屋市の市民活動の物語がどんなものであるか皆で作りたいし、行政はそのリーダーシップを取ってもらったらすごくいいと私は思っています。いろんな活動がバラバラにあって、結構な広がりがありますね、というよりは、何か一つの糸でキュッと括られているところがあると、その物事の判断とか物事の組立てがしやすくなっていくのではないかと感じています。

（平野副会長）　渡辺会長も言われたように、市民参画や市民協働の物語というかですね、あるいは今日の話でいうと幾つかのエピソードが、計画の推進上、何を投げかけているのかということを、行政としてはちゃんと整理しておく必要があると思います。そしてこの委員会で話されること自体は議事録に残るけれども、それがどういう形で次の行政課題に集約されたのかを、委員に報告されることが大切だと思います。今日幾つか話があった中で、先ほどの市民提案型事業補助金の公募の在り方は本質的だし、もっとも行政がやりにくそうな提案なわけです。しかし前年度に公募をすること自体はそんなに不可能なことではないようにも当然思いますし、今回投げかけられた内容が個別具体のように聞こえるけれども、かなり普遍性のある話として行政に受け止めていただくことが必要だと思います。

議事の内容を整理し、例えば全体として、10 の提案があれば、10 の内容について次期に具体化できるものや、あるいは将来的に具体化すべき内容とかの判断、そういうことを検討していく余地があるということの、確認されたものを、毎回の議論が議事録止まりではなくて、それが次の検討にプラスになっていくことを、委員にフィードバックされるといいのではないかと思います。

（渡 辺 会 長）　ありがとうございました。右肩上がりに一直線にやるということは行政はなかなか難しいですけど、同じところをずっとなぞっているのでなくて、スパイラルして上がっていくような感じで物事が進捗していくと、私たちも委員としてやりがいがあるなと思っているのが皆の共通の気持ちであり、意見であるように思います。

（事　務　局）　ありがとうございました。次回の開催は令和５年度に開催となります。次回の議題は、本日いただいたご意見などを反映できるところは反映させていただいて、また計画の進捗のご報告をさせていただければと考えております。開催の時期は秋頃と考えております。委員の任期が令和５年の６月３０日までということになっておりますので、次回は新たなメンバーに委嘱をさせていただき開催することになります。また委員の皆様には時期について改めてご相談させていただくことになろうかと思いますので、その際はどうかよろしくお願いいたします。

（渡 辺 会 長）　そのようなことですので、残られるメンバーの方たちとはご一緒されるかもしれないということですね。以上を持ちまして本日の会議を終了したいと思います。皆様どうもお忙しい中ありがとうございました。